

重点施策点検・評価表

1-1-1

基本目標			
1	信頼と安全を築く教育環境の整備充実		
重点施策			
1	安全・安心で快適な学校生活のための教育環境の整備充実を図る		担当課(館)
	① 長寿命化改修等による学校整備計画の推進		教育総務課
	活動内容	小中学校25校中、8割にあたる20校が建設後30年以上を経過し、学校施設の老朽化対策を早急に講じる必要があるため、平成31年3月に策定した「学校施設長寿命化計画」を基に、建築経過年数や構造体の健全度、統廃合の見込みなどを考慮し、長寿命化改修や大規模改修の対象を選定して、学校施設の整備を計画的に推進する。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 建築年の古い校舎の耐力度調査の実施により、躯体の健全性が示されたため、学校整備は「改築」から「長寿命化改修」へとシフトした。このため、大規模改修や部位改修を計画的に進めるための中期(5か年)整備計画を策定し、令和3年度から新型コロナウイルス感染症対策及び環境衛生改善のため、文部科学省の交付金を活用して小中学校のトイレ洋式化工事を実施している。 令和5年度は小中学校3校のトイレ洋式化工事を実施し、和式を利用できない児童生徒の待ち時間が向上されるなど、学校内の利用環境の改善が図られた。 また、中学校2校について、屋内消火栓の改修工事や防火シャッター等改修工事を行い、安全・安心な教育環境の改善が図られた。	
	課題等	今後も、大規模改修や部位改修を計画的に進めてくため、文部科学省をはじめ各種交付金・補助金を活用し、積極的に子どもたちの教育環境の整備を進めていかなければならない。 このため、改修内容や必要経費を算出した上で、緊急度などの優先順位を定めて計画的に工事を実施していく必要がある。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	安心な学校生活を送るため、ハード面の環境整備を進めていることはありがたい。特に洋式トイレについては思春期の子どもたちにとってデリケートな問題であり、和式トイレが使えないことを言えずに悩んでいると聞いたことがあるため、今後も段階的に進めてもらいたい。 安全性に関わる改修工事などは優先的に実施していることで、子どもたちの安心安全な教育環境の土台になっていることに評価する。継続して対応いただきたい。	

重点施策点検・評価表

1-1-2

基本目標			
1	信頼と安全を築く教育環境の整備充実		
重点施策			
1	安全・安心で快適な学校生活のための教育環境の整備充実を図る		担当課(館)
	② 学校の維持改修・修繕などの経年劣化対策実施による学習環境の整備		教育総務課
	活動内容	施設や設備の改修・修繕が必要な箇所や、学校・PTA等から要望がある改修箇所は次年度の予算要求前に調査をし、小規模から中規模のものは改修内容の分類や必要経費を算出した上で、危険度などの優先順位を定めて計画的に工事を実施する。 大規模改修や年次計画による改修工事等を計画する場合は、国の交付金を活用して実施を検討する。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 老朽化に伴う改修・修繕は、計画的な施工のほか突発・緊急的な事故等にもすぐに対応し、学校運営に支障をきたさないよう適切に処置した。 しかし、次から次へと破損や故障が発生するため、即座に緊急度や優先順位を判断し、限られた予算を最大限に活用して対応した。 また、令和4年度の小中学校の要望に対する実施率は2割ほどであったが、令和5年度は3割を超え、少しずつではあるが、学校・PTA等からの要望に答えるよう努力している。	
	課題等	学校・PTA等からの要望は、老朽化が進む校舎や設備に対する改修がほとんどであり年々増加する一方だが、教育活動が止まることのないよう緊急対応や突発的な修繕を優先せざるを得ないため、要望改善の対応がまだ不十分である。 しかしながら、実施率が増加傾向にあり、着実に進めてきた成果もみられることから、引き続き、実現可能な施策の情報収集と予算の確保に努めていく必要がある。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	学校やPTAの要望は年々追加されている中で、全体の3割以上が実施され、着実に対応できていることは評価できる。緊急・突発的な事案や諸問題に対する取り組みについても迅速に対応しており、子どもたちの安心に寄与している。 PTAができることは親子で取り組むなど、子どもの思い出につながっている部分もあるため、学校と連携しながら、さまざまな手法を合わせて学習環境づくりを継続していただきたい。	

重点施策点検・評価表

1-1-3

基本目標			
1	信頼と安全を築く教育環境の整備充実		
重点施策			
1	安全・安心で快適な学校生活のための教育環境の整備充実を図る		担当課(館)
	③ 会計年度任用職員(校務主事等)の適正な人事管理		教育総務課
	活動内容	小中学校に配置している校務主事など、教育総務課で任用して給与の支払いやサービスに関して管理している会計年度任用職員は約50人を上回る。配置校によって勤務時間や勤務条件も多種多様で、中途退職者も多いことから、適正な人事管理により児童生徒の学校生活を支援し、より良い教育環境づくりを進める。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 教育支援員や給食調理技師等に年度途中の退職者が数名発生したが、ハローワーク等を通じて随時補充し、学校運営や教育活動に支障をきたすことなく適正に管理した。 校務主事に対して教育する必要がある安全衛生講習会(草刈り作業講習、除雪作業講習)を年2回実施することができた。また、市のクラウドファンディング事業で実施した桜剪定講習会へも参加を募り、技術の習得を図った。	
	課題等	毎年実施している安全衛生講習会など、会計年度任用職員に対して実施する必要がある教育について、今後もスキルの向上につながる教育の機会を確保して、安全・安心な教育環境づくりを進めていく。 また、校務主事に関しては、正職員(再任用職員)の退職により、会計年度任用職員が増えてきているため、今後はアウトソーシング(業務委託)を視野に検討する必要がある。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	正職員を採用しなくなったことにより、会計年度任用職員の校務主事や給食調理技師等の果たすべき役割は大きいと思う。毎年、職員の安全衛生講習会を実施することは、安全な作業・知識を身に付けてもらうことで事故防止を図ることができる。人命にも関わることなので、これからも継続をお願いする。 業務委託について課題は多いだろうが、時代に合わせ、先々を見据えながら検討を進めていただきたい。	

重点施策点検・評価表

1-2-1

基本目標			
1	信頼と安全を築く教育環境の整備充実		
重点施策			
2	豊かな人間形成の場としての社会教育施設等の整備充実を図る		担当課(館)
	① 社会教育施設の充実と安全性の確保		教育総務課
	活動内容	釈迦内・花岡公民館の大規模リニューアル工事を行い、屋根や壁の改修のほかトイレの水洗化及びバリアフリー化、室内の手摺り設置などを行い、各地域のコミュニティの核となる施設の良好な環境を確保する。 経年劣化による故障や破損には応急処置などで対応しながら各施設の機能維持を図り、速やかに必要な予算を確保して修繕や改修を行い、利用者の安心と安全確保を図る。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 釈迦内・花岡公民館の大規模改修工事は1月までに完成させ、2月13日に両公民館の完成検査を経て完了した。 改修工事では、施設の利用状況に配慮し、工事箇所の調整等を十分に行いながら施工できた。バリアフリーに配慮した洋式水洗トイレ、室内の手摺やスロープの設置、屋根や外壁は張り替えや塗装を行った。 完成後は利用者から非常に高い評価をいただき地域コミュニティの核となる地区公民館の長寿命化と良好な利用環境の整備に努めた。	
	課題等	各公民館の大規模な改修工事については一段落したが、他の社会教育施設は老朽化が進んでおり設備の故障が増えている。 今後の設備の改修・整備には適切な更新計画を作成し、進めていく必要がある。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	公民館の建物改修は地域の人口が減少する中で、地元の方々の意見や要望を拾い上げて計画・実施し、完成が喜ばれたことは市としてうれしいことと思う。 設備の故障等についても予算の問題もあるが、計画的に実施していただき、大人の充実した社会教育を発信する場所として、利用がますます充実していくことを期待する。	

重点施策点検・評価表

1-2-2

基本目標			
1	信頼と安全を築く教育環境の整備充実		
重点施策			
2	豊かな人間形成の場としての社会教育施設等の整備充実を図る		担当課(館)
	② 社会教育施設の適正管理		教育総務課
	活動内容	施設の運営に直接影響を及ぼす高圧気中開閉器更新工事(上川沿公民館)、高圧ケーブル更新工事(北地区コミュニティセンター)や給水ポンプ交換工事(中央公民館)を実施する。 また、安全な施設運営のために、パッケージ型消火設備工事(上川沿公民館)や非常用照明設備取替工事(比内公民館)などを実施するほか、年間を通じて管理が必要な保守点検等を施設管理者と調整を図りながら進め、良好な施設運営と適正な施設管理を維持する。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95~100%) ☐ 目標をやや下回る (80~94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 施設運営に直接影響を及ぼす恐れのある箇所は早期に対策工事を実施し、当初から計画していた上川沿公民館の高圧気中開閉器更新工事やパッケージ型消火設備工事、北地区コミュニティセンターの高圧ケーブル更新工事などは予定どおり完成させた。 また、突発的な設備の故障や不具合には、施設管理者と連携しながら速やかに対応し、利用者の活動に支障をきたさないよう維持管理に努めた。	
	課題等	建物の老朽化に伴い設備の故障が多くなっている。保有している53施設のうち約6割が築30年を超えている現状から、故障による施設の利用停止とならないよう更新計画を作成し、進めていく必要がある。 また、「大館市社会教育施設長寿命化計画」に基づき、施設所管課の生涯学習課や中央公民館、歴史文化課と連携し、施設の集約化及び存続施設の改修について計画的に実施する整備計画を策定しなければならない。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	管理する施設の多さと、突発的な故障等に対応するため、計画的に進めていくことが大切だと思う。計画があることによって見えてくるものがあることから、地域の教育のために利用者が困らないよう取り組んでいただきたい。 施設の集約化については、利用者の窮屈さ、不便さがないように活用状況を見極めながら進めていただきたい。	

重点施策点検・評価表

1-3-1

基本目標			
1	信頼と安全を築く教育環境の整備充実		
重点施策			
3	大館の教育の理念と実践について、市民への周知と全国への発信に努める		担当課(館)
	① 教育委員会施策の情報発信の強化		教育総務課
	活動内容	毎月開催する教育委員会会議では、実施する施策やその進捗状況などを的確に報告し、協議や討議内容を議事録にまとめてホームページ等で公表する。 教育委員会事務事業の点検・評価表や総合教育会議の議事録など、教育委員会の活動内容を市民をはじめ全国に発信し、取り組みを進めている教育の産業化構想やおおだて型教育の周知を図るとともに、大館で学ぶ移住・交流人口の拡大に努める。 教育委員会活動の透明性を図るため、ホームページや定例記者会見、報道機関などを活用し、情報発信をより積極的に行う。	
	点検評価	☐ 目標を上回る (達成率100%超) ☒ 目標どおり (95～100%) ☐ 目標をやや下回る (80～94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 教育委員会会議及び総合教育会議の議事録、教育委員会事務事業の点検・評価結果など大館の教育が取り組む活動内容について理解を深めていただくため、市ホームページで公表した。また、大館まなび大学と連携して市内各学校の特色についても情報発信を行った。	
	課題等	大館の教育の理念と実践結果を全国に情報発信する手段として、市ホームページを活用しているが、日常生活の中における情報発信媒体の多様化に伴い、SNS等のアプリケーションサービスを活用した発信手段も検討する。 また、市民への情報発信として地元マスコミ報道が有効であるため、積極的に報道機関を活用していく。	取組の方向性 ☒ 継続 ☐ 廃止検討 ☐ 単年度
	学識経験者等意見	教育ツーリズム等により、全国から大館市へ視察に訪れている教育関係者が多いことは、日頃からさまざまな情報発信をされてきた成果だと思う。 新聞報道は、市の教育活動を市民に知っていただく方法として有効であるが、ホームページ等については手軽に全国へアピールできるツールであるため、多くの取り組みを透明性をもって情報発信に努めていただきたい。	

重点施策点検・評価表

1-3-2

基本目標			
1	信頼と安全を築く教育環境の整備充実		
重点施策			
3	大館の教育の理念と実践について、市民への周知と全国への発信に努める		担当課(館)
	② 東北六縣市町村教育委員会連合会定期総会及び教育委員・教育長研修会の開催時における「おおだて型授業」の発信		教育総務課
	活動内容	東北六県の教育委員・教育長が一同に集う「東北六縣市町村教育委員会連合会」の定期総会及び研修会が、7月6日と7日に本市で初の開催となる。初日には市内の小・中学校25校すべての公開授業を実施し、おおだて型授業(響学)を具現化する絶好の機会と捉え、東北地方全体に情報を発信する。	
	点検評価	☒ 目標を上回る (達成率100%超) ☐ 目標どおり (95~100%) ☐ 目標をやや下回る (80~94%) ☐ 目標を大幅に下回る (80%未満) 「東北六縣市町村教育委員会連合会」の第71回定期総会及び研修会が7月6日と7日の2日間、プラザ杉の子とほくしか鹿鳴ホールを会場に開催され、127自治体の教育委員及び教育長、関係者ら538名の方々が参加された。 7月6日は東北六縣市町村教育委員会連合会の定期総会が開催され、それに合わせて市内の小中学校25校全てで公開授業を実施し、231名の方々に本市の「おおだて型授業(響学)」による共感的共働的学び合いや対話的学び合いを実感していただいた。 7月7日は研修会がほくしか鹿鳴ホールで開催され、「教育による消滅可能性都市からの脱却」と題して高橋教育長が講演を行い、参加者から盛大な拍手が送られるとともに本市の教育に対して非常に高い評価をいただいた。 また、ホールロビーでは、市内小学校の児童らが作ったひまわり油やドレッシングの販売を行ったところ、行列ができるほどの盛況ぶりで大館市のふるさとキャリア教育を大いにPRできた。	
	課題等	令和6年11月2日には、「全国小学校キャリア教育研究大会」が本市で開催されることが決定している。 本市での開催は2度目であり、教育研究所が担当となるが、今回の「東北六縣市町村教育委員会連合会の定期総会及び研修会」の成功を踏まえ、教育研究所と協力体制を構築して万全の態勢で全国の教育関係者をお迎えし、本市の「ふるさとキャリア教育」や「おおだて型授業(響学)」を発信していく。	取組の方向性 ☐ 継続 ☐ 廃止検討 ☒ 単年度
	学識経験者等意見	これまで準備した関係者の努力の成果により、このような大きいイベントで大館の教育が発信されたことは大変すばらしく、評価したい。 教育長が進めてきた、ふるさとキャリア教育で育った子どもたちが、大人になって自分を見つめ直し、ふるさとを思い出させ、ふるさとの良さに気付かせるのが「ふるさとキャリア教育」である。地元に戻ってくることだけが還元ではないし、都会でふるさとの資源や人材を生かすことで多様なつながりが生まれると思う。 今後の大きなイベントについても、大館らしい教育の発信に期待する。	